



Nob  
さんの

# 航空縮尺 イラスト グラフィティ

エトセトラ編 2

下田信夫 / 著

大日本絵画  
Dainipponkaiga

Nob  
さんの

# 航空縮尺 イラスト グラフィティ

エトセトラ編 2



# Contents

## 【目次】

コラム「ぼくが観たNobさんのヒコークィ・ワールド」中村浩美【02】

### 航空科学博物館全所蔵作品

ライトフライヤー【04】／アンリ・ファルマン複葉機とグラデー単葉機【05】／プレリオ 11【06】／  
フォッカー Dr.1【07】／ダグラス・ワールドクルーザー【08】／ライアン NYP「スピリット・オブ・セントル  
イス」【09】／ドルニエ Do.X【10】／ペランカ「ミス・ビードル」【11】／スーパーマリン S.6B【12】／ダ  
グラス DC-3【13】／朝日新聞「神風」と毎日新聞「ニッポン」【14】／航空研究所 試作長距離機「航研  
機」【15】／ハインケル He178【16】／零式艦上戦闘機【17】／ベル XS-1【18】／ベルリン大空輸【19】  
／デハビランド コメット【20】／セスナ172【21】／日本航空機製造 YS-11【22】／ロッキード SR-71  
【23】／ボーイング747【24】／コンコルド【25】／ゴスマー アルバトロス【26】／エアバス A320【27】

コラム「Nobさんと松戸迷才会」渡邊登【28】

### Nobさんの図説編

飛行艇大西洋横断史【29】／ラテコエール521/522とメッサージュミット Me321, Me323【33】／B-29の機体構造【34】  
／B-36の機体構造【36】／戦後日本の航空再開【38】／日本の国産機【40】

### 伝説の模型誌『レプリカ』表紙画

ロッキード P-3C オライオンとコンソリデーテッド PBV-5 カタリナ【44】／LTV A-7 コルセアIIとフェラー  
リ 250GTO／三菱 T-2 ブルーインパルスとロッキード C-121J スーパーコニー【45】／マクドネル YF4H-  
1 ファントムII／グラマン F-14 トムキャット【46】／グラマン F-14 トムキャット【47】／マクドネル・ダ  
グラス F-4EJ ファントムII【48】／トップガンパイロット／グラマン A-6 イントルーダー【49】／バナビ  
ア トーネード GR.1【50】／ダグラス A-1H スカイレーダー／ヴォート F-8 クルーセイダー【51】／ホー  
カー・シドレー シーハリヤーFRS1／ホーカー ハリケーンとスーパーマリン スピットファイア【52】／三  
菱 A6M 零式艦上戦闘機【53】／川崎 キ45改 二式複座戦闘機 屠龍とB-29【54】／メッサージュミット  
Bf109E／ハンス＝ヨアヒム・マルセイユとメッサージュミット Bf109F【55】／M113 装甲兵員輸送車／ミ  
ハエル・ヴィットマンとティーガーI【56】／レイトンハウス・ジャッド CG901Bとフェラーリ 6412／ロー  
タス・ホンダ99Tとベネトン・フォード B187とマクラーレン・TAGポルシェMP4/3【57】／シェルビー・デ  
イトナクーペ／シェルビー コブラ427 S/C【58】／フェラーリ F40／日欧の騎馬兵【59】／

コラム「Nobと私の拝見・体験・奮戦記」小島鉄雄【61】

### 着彩イラスト

中島 G8N 連山／三菱 キ1-II 九三式二型双発重爆撃機【62】／キ78 研三 & ベル P-63 キングコブラ  
／中島 橘花 & 三菱 キ51 九九式軍偵察機【63】／川西 H8K2-L 仮称晴空三二型／川崎 キ61 三式戦  
闘機 飛燕 & 川崎 キ45 双発複座戦闘機【64】／中島 G5N 深山 & 中島 キ43 一式戦闘機 隼／中島  
B6N1 天山 一型【65】／中島 キ27 九七式戦闘機／中島 キ27 九七式戦闘機 & ベトリヤコフ Pe-2  
【66】／三菱 A6M 零式艦上戦闘機／立川 キ77 A-26【67】

### Nobさんの空戦史

#### PostWWII エア・コンバット・ベスト12

No.1 1948年6月3日テルアビブ上空 S.119×C-47【68】／No.2 1950年11月1日～9日鴨緑江上空  
MiG-15朝鮮戦争デビュー戦【70】／No.3 1953年5月18日 MiG ALLEY F-86セイバー対MiG-15  
【72】／No.4 1956年10月30日シナイ半島ミトラ上空 ウーラガン対バンバリア【74】／No.5 1958年  
9月24日 金門馬祖島上空 AIM-9サイドワインダーデビュー戦【76】／No.6 1965年9月6日バンジャ  
ブ戦線 F-104対ミステールIVA【78】／No.7 1967年6月5日 アブズウェイル上空 ミラーージュIII CJ対  
MiG-21F【80】／No.8 ローリング・サンダー作戦・ベトナム戦争'65～'68 ポートF-8クルーセイダー対  
MiG【82】／No.9 ラインバッカー作戦・ベトナム戦争'72 F-4ファントム対MiG【84】／No.10 1981  
年3月13日レバノン上空 F-15イーグル対MiG-25フォックスバット【86】／No.11 1981年8月19日シド  
ラ湾上空 F-14トムキャット対Su-22フィッター【88】／No.12 1982年5月1日ポート・スタンレー上空  
シー・ハリヤー対ミラーージュIII EA【90】／Nobさんの『バーズ・アイ』番外編・Nobさんの初夢! 空自  
ニューウイング勢揃い!【92】

着彩画制作シークエンス【94】

P4～P27, P62～P67 実機解説／二宮茂樹

本誌4ページから27ページに掲載されているイラストは、2023年現在、千葉県航空科学博物館にて常設展示されているものである。いまのところNobさんの原画を常時見ることができるのは航空科学博物館のみとなっており、大変貴重なので是非見に行ってもらいたい

<http://www.aeromuseum.or.jp/>  
千葉県山武郡芝山町岩山 111-3

- 入館料 大人：700円 中高生：300円 こども(4歳以上)：200円
- 午前10時から午後5時(入館4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日) 年末12月29日から31日
- ※情報は全て2023年のものです



### 下田信夫

●しもだのおぶ 1949年2月14日～2018年5月22日(享年69)。東京都北区生まれ。初めて実物の飛行機を見たのは小学4年生のころ、都内見学で羽田空港へ行った時のこと。飛行機模型は木材を削って作ったソリッドモデルを手始めに、飛行機や戦車のプラモデル作りに明け暮れた。都立工芸高校を卒業後、東京航空計器に入社。仕事の傍ら趣味のヒコークィ画を極めようと、カルチャースクールに通って基礎修行に励んだ。退職しフリーイラストレーターの道を歩み始めたのは入社から3年4か月後。以来、『読売少女少女新聞』での挿絵や4コマ漫画を描きながら、やがて好きなヒコークィのイラストを描く場を求めて作品を持ち込んだ先が、航空雑誌の老舗「航空情報」。そこで出会ったのが後に月刊「航空ジャーナル」を創刊する青木日出雄氏であり、編集者の藤田勝弘氏や中村浩美氏だった。このときの信夫さんはまだ20代前半という若さ。青木氏らが1974年に「航空ジャーナル」を創刊するとNobさんはメインイラストレーターとして起用された。「拝見、体験、奮戦記!」などのルポや編集後記のひとコマ漫画など、ヒコークィ好きにはたまらないウィットに富んでいた。また厳密な時代考証に基づいているにも関わらず、何よりすべての航空機が愛らしく描かれ、読者の人気を集めた。同誌廃刊後も雑誌「スケールアヴィエーション」や「丸」などで連載を持った。著書に「Nobさんの飛行機画帳 イカロス飛行隊」(光人社/刊)、「球形の音速機」(廣済堂出版/刊)など。「Nobさんの航空縮尺イラストグラフィティ」(大日本絵画/刊)は本書で4冊目

## 僕が観たNobさんのヒコーキ・ワールド

Nobさんとの出会いは、1971年9月17日のことだった(記録が残っている)。当時僕が所属していた『航空情報』の編集部で、Nobさんが作品を取めたファイルを抱えて訪ねてくれたのだ。すでにほかの雑誌でNobさんの作品を評価していたので、編集部としては大歓迎の売込みだった。でも月刊本誌ではすぐにはページを用意できなかったもので、まずは増刊号でデビューしてもらった。最初はカット絵や挿画だったけれど、単なる説明的な挿絵ではないところがユニークだった。アイデアやツイスト(ひねり)が込められていた。後年の天才的な到達点の萌芽が、すでにあっただ。増刊号と並行して月刊本誌にも登場してもらうまで、そう時間はかからなかった。

Nobさんが初めて搭乗した飛行機は、YS-11だった。1972年5月20日のことだ(これも記録が残っている)。全日空の東京～秋田線のYS-11だ。僕が同行した。エアルートを紹介する取材旅で、僕の文章とNobさんのイラストという組み合わせで掲載された。これがその後何十篇と続くことになる、二人の共同作業の始まりだった。それはまた国内各地、アメリカ、ヨーロッパへと続く、一緒に旅の第一歩でもあった。Nobさんのイラスト・ルポのルーツと言っても良いだろう。

1974年に、青木日出雄さんを中心に僕たちが『航空ジャーナル』を創刊したときには、懇願してNobさんに専属イラストレーターになってもらった。ここを舞台に、Nobさんの多彩な才能が一挙に開花し、本誌と増刊号で八面六臂の大活躍が展開されたわけだが、言い方を変えると僕たちがNobさんをこき使ったということでもある。飛行機イラストは勿論のこと、イラスト・ルポ、体験記、ピクトリアル・ヒストリーなどなど編集部のどんな要求にも、常に全力で応えてくれた。Nobさんは完璧主義者だから、アイデアでも表現でも自らに妥協を許さないので、苦

悶の日々を過ごすこともあったようで、締切り破りの常習犯だった。しかし出来上がりは常に素晴らしいものだったので、僕たちのイライラやハラハラは、作品を見たときに霧消したものだ。

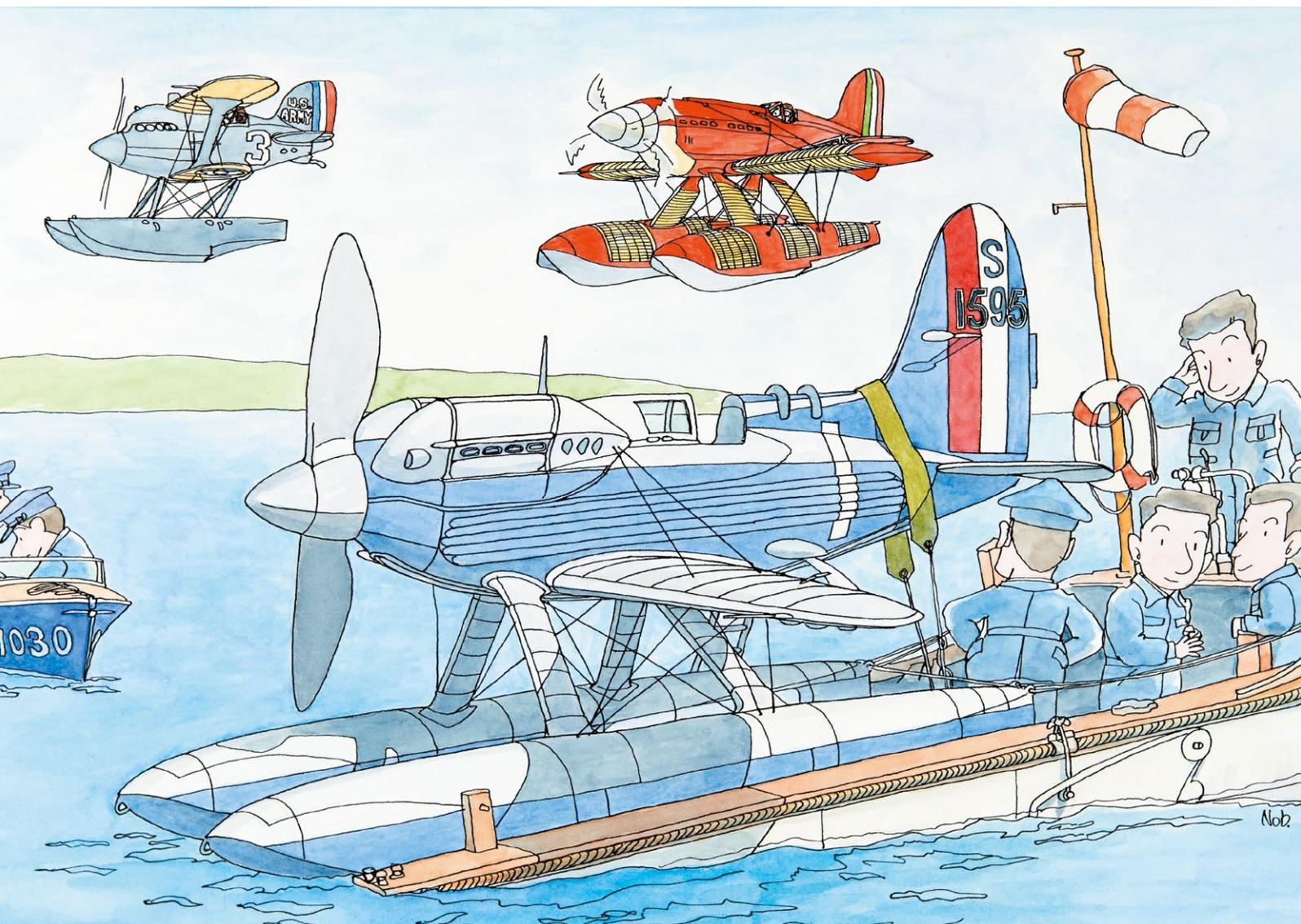
Nobさんの評価と声望を決定づけ、多くの飛行機ファンに愛された「ひとコマ漫画」は、『航空ジャーナル』編集後記の連載だった。Nobさんの「ひとコマ漫画」には、アイデアがあり、ツイストがあり、ユーモアやアイロニーも込められている。暗喩も秘められているから時に超難解とも評され、解説にマニアの頭を悩ませ、そして心をわしづかみにした。

Nobさんの飛行機イラストの最大の特徴であり魅力は、ユニークな究極のデフォルメにある。コロコロとした丸みを帯びた、あの“立体感のあるデフォルメ”(Nobさん自身の表現)だ。デフォルメのラインが良く分かる線画が見事だが、カラー原画ではその魅力が倍増する。この作品集でも、古典機から超音速機まで、そのNobワールドを満喫できるだろう。風景や人物が描けるのも、Nobさんの才能だ。書き文字もいい。そこで優れたイラスト・ルポや体験記が生まれ、初飛行や記録飛行の歴史的シーンの再現も描かれたわけだ。この作品集では、特に空戦史でその成果を確認することができる。

僕が『航空ジャーナル』の編集長を辞めて独立してからは、仕事での付き合いはなくなったけれど、プライベートな交誼は終生続いた。会う機会は減ったけれど、会えばいつでも原点に戻れたものだ。二人の原点とは、お互いに無名時代の若き日に、新宿の酒場で夜な夜なグラスを重ねあった日々のことだ。夢を、野望を、酒の勢いを借りながら語り合ったものだった。遠くまで行くんだという気概があった。Nobさんと僕の青春の日々だ。Nobさん、天国のヒコーキ王国でまた会おう。

## 中村浩美

●なかもらひろみ 1946年生まれ。'79～'84年に『航空ジャーナル』の編集長を務めた後、航空評論家、TVキャスターとして独立。下田信夫氏との付き合いは、無名時代から世界各地と一緒に取材するなど生涯に及んだ。『飛行機をめぐる冒険』、『旅客機大全』、『YS-11世界を翔けた日本の翼』他多数

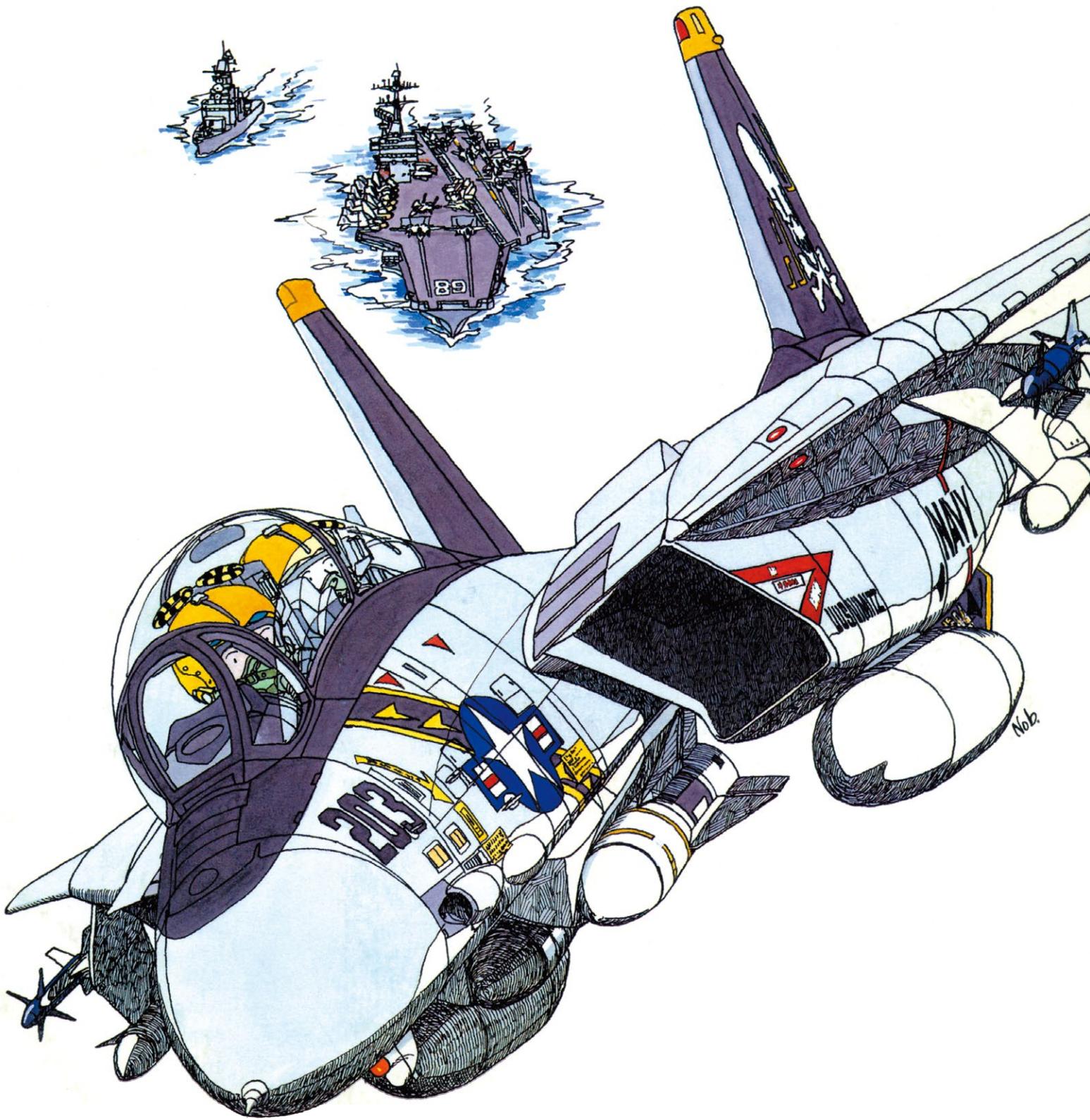


## スーパーマリン S.6B

Supermarine S.6B

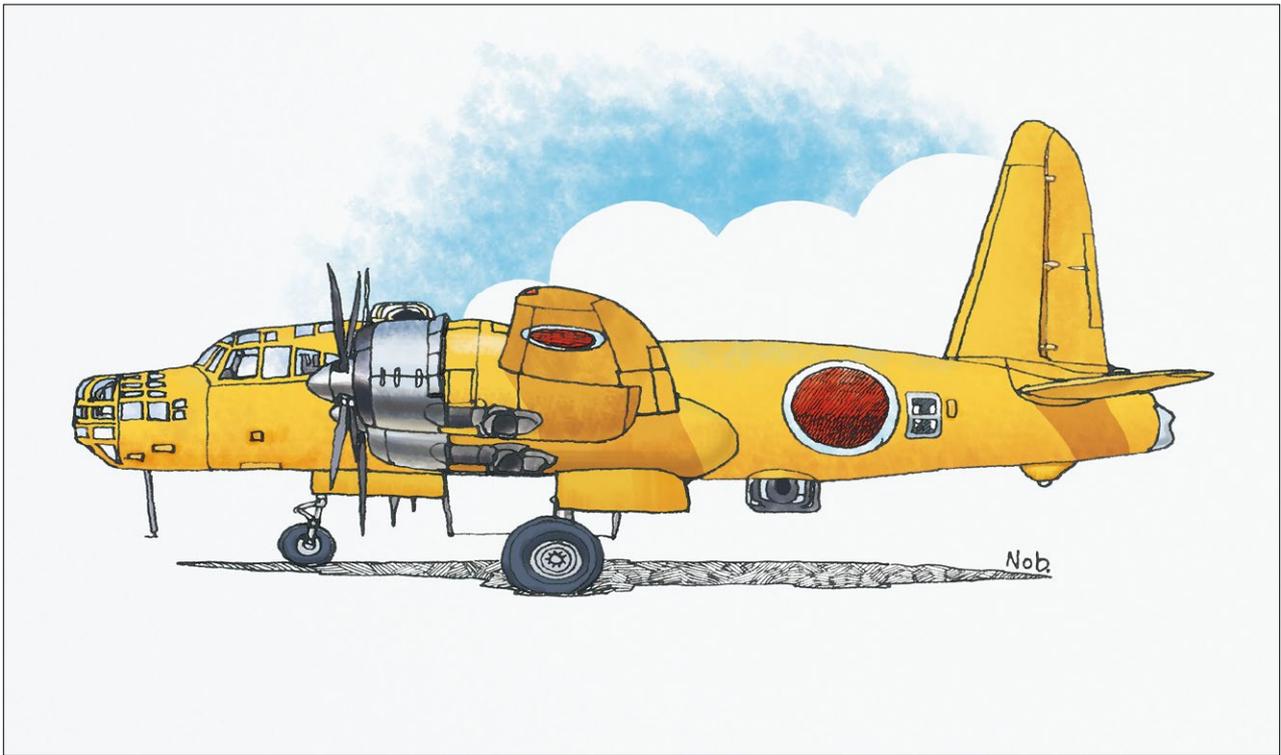
1931年・イギリス

左上を飛んでいるのがアメリカのカーチスR3C-2で、1925年のシュナイダートロフィーレースで優勝後、世界速度記録を更新した。その6年後、下のスーパーマリンS.6Bがやはりシュナイダーレースの優勝後に速度記録に挑戦しR3C-2の記録を更新。このS.6Bの改良設計を任されたのが、かのR.J.ミッチェルでスピットファイアの設計者だ。その後、右上のマッキM.C.72が1933年に速度記録に挑戦し、S.6Bの記録を更新している



グラマン F-14 トムキャット  
1987年7月号 (通巻17号)

CVN-68空母ニミッツから発艦したのはスカルのエンブレムで有名なVF-84 ジョリー・ロジャースのF-14Aトムキャット。まだ視認性の高いハイビジ塗装が施されていた時代だ。武装はF-14専用のAIM-54フェニックスとAIM-9サイドワインダー、AIM-7スパーロー装備の満艦飾。ニミッツに並走するのはミサイル駆逐艦ジョン・ポール・ジョーンズ。ニミッツが第11空母打撃群旗艦であることを踏まえ、随伴艦まで描くというNobさんならではの視点だ

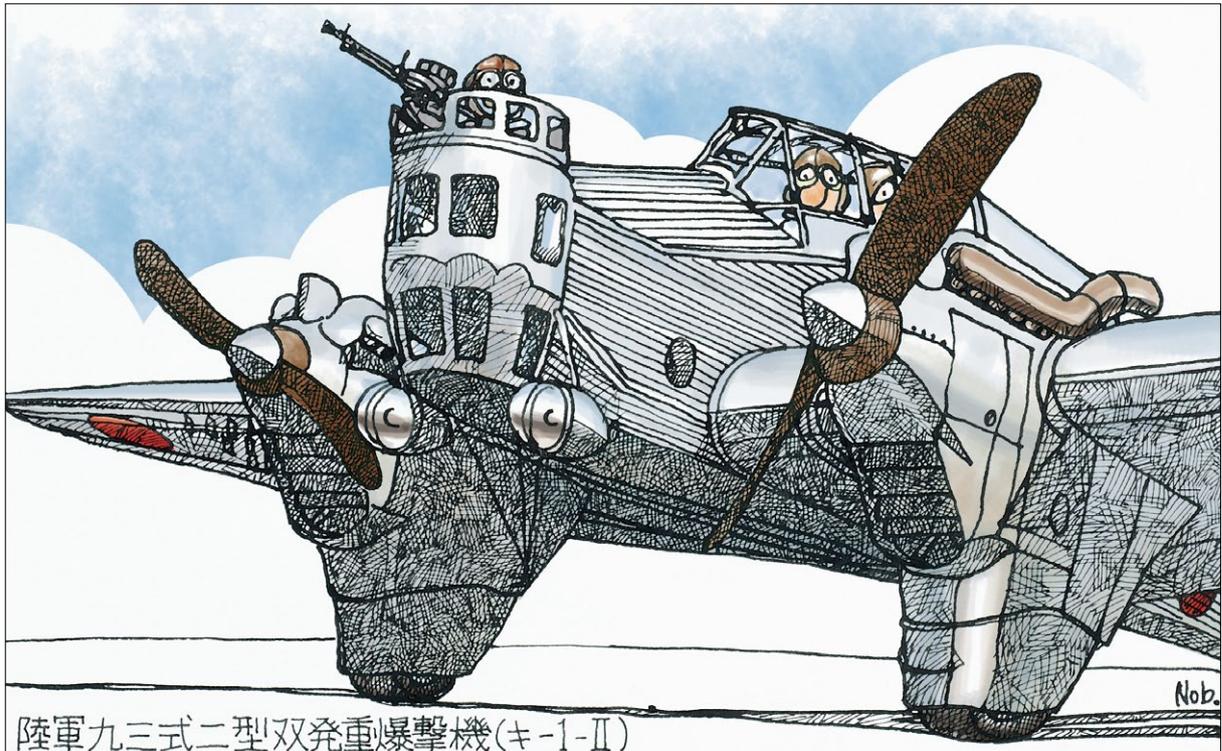


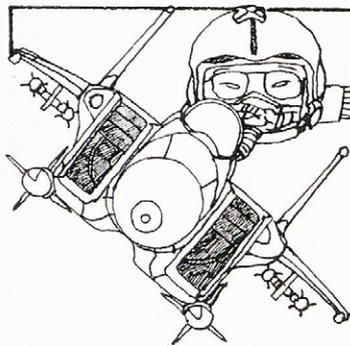
### 中島 G8N 連山

1943年、4発の高性能大型陸上攻撃機が必要と海軍が中島飛行機に試作機を発注、中島は捕獲したB-17の装備などを参考にB-17よりやや大きめに設計した。極力空気抵抗を減らし排気タービンを装備して高性能化をはかり、約1年後に1号機が完成したがすでに資材調達が難しくなっており、1945年に試作機が4機完成したところで資材を戦闘機に回すとして開発は正式に中止された

### 三菱 キ-11 九三式二型双発重爆撃機

ドイツのユンカースK37爆撃機を拡大する形で三菱が開発した九三式重爆撃機は、急いで採用を決めたため配備した部隊で不具合が続出した。そこで機首やエンジン回りを再設計したところわずかに性能の向上が見られたので、これを九三式二型双発重爆撃機とし改めて採用した。ユンカース機と同様の波板外板を持ち、エンジンセルから主脚を覆うスパッツが特徴だった





# Nobさんの空戦史

## PostWWⅡエア・コンバット・ベスト12

### No.10 1981年3月13日レバノン上空

## F-15イーグル対MiG-25フォックスバット

1979年春、エジプト・イスラエル和平条約締結。

◎シリアはレバノンに、1975～76年のレバノン内戦以後、平和維持軍3万を常駐させていた。

1979年6月27日、F-15『イーグル』の初陣。

レバノンのパレスチナ・ゲリラ基地を攻撃中のイスラエル軍のF-4、A-4に対して、シリア空軍のMiG-21が迎撃。F-15は遠くイスラエル上空で空中警戒中のE-2Cの指示に従って、F-4、A-4の援護にあたり、MiG-21を4機撃墜。

F-15の完勝。

F-15『イーグル』



1979年9月19日、シリア空軍の新鋭機MiG-23『フロロッガー』が実戦に初登場。レバノンを探察中のRF-4E偵察機に対して2機のMiG-23が迎撃。F-15は遠方からレーダーにMiG-23を捕捉、

シリア空軍のMiG-21

MiG-23『フロロッガー』

スパロー・ミサイル  
イスラエル国産のシャプリル・ミサイル

張り切って現場に駆けつけたが、すでに『フロロッガー』は離脱し帰投してしまった後……。

戦意のない(?)『フロロッガー』に教育的指導。

RF-4Eは無事イスラエルの基地に帰投。

キプロス

地中海

レバノン

バイルート

シリア

ダマスカス

テル・アビブ

イスラエル

エルサレム

エジプト

シナイ半島

ヨルダン

イスラエル空軍の  
早期警戒機「グラマン  
E-2C『ホークアイ』

1981年3月13日、レバノン  
上空で、米ソの最新鋭機、  
F-15『イーグル』とわが国  
で一番著名なソ連機  
でありますところの  
MiG-25『フォックスバット』

イスラエル空軍の  
F-15『イーグル』

とが対決した。

偵察中のイスラエル軍RF4E偵  
察機に対して要撃に向かった、  
シリア空軍の最新鋭要撃機MiG-25『フォックスバット』を、偵察援護のために上空哨戒中だった  
F-15『イーグル』が見付けて、スパーロー  
ミサイルで撃墜。

『イーグル』の一本勝ち。

1982年6月6日、イスラエル  
軍がレバノンに侵攻。  
レバノン駐留シリア  
軍と交戦。

MiG-25『フォックスバット』



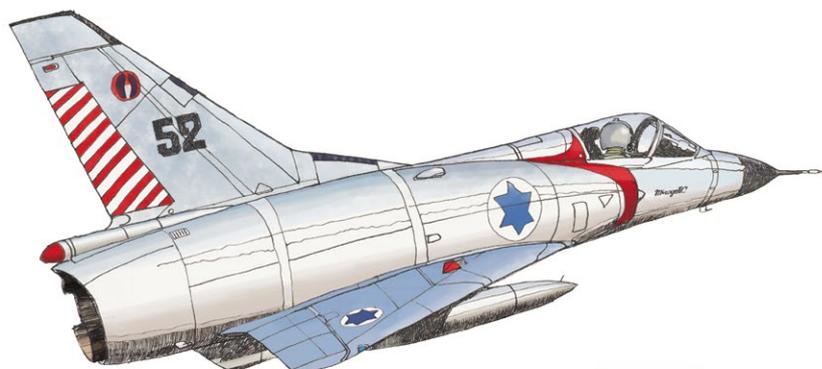
9784499233781

ISBN978-4-499-23378-1 C0076 ¥3400E

定価(本体3,400円+税)



1920076034008



Nob  
さんの

# 航空縮尺 イラスト グラフィティ

エトセトラ編2